

令和5年度東京都立三田高等学校						学校経営報告		
Have Wings And Fly High！ - 教養・探究・立志そして世界へ -								
国際理解教育・知的探究イノベータ推進事業支援								
目指す学校＜教養・探究・立志そして世界へ＞								
（１）学校の教育目標＝教養人・指導者・開拓者の育成			（２）目指す生徒の将来像＝協働・創造・自立できる人材			（３）学校の教育目標を達成するための基本方針		
ア 幅広くしなやかな知性と潤い豊かな感性をもつ教養人 イ 自主・創造の意欲と忍耐力・協調性との調和のとれた高い徳性を持つ指導者 ウ 自己を厳しく律しつつ、常に進取の気概をもって社会貢献できる開拓者			ア グローバル社会の中で、多様な価値観をもった人々と英語をツールとして、協働して課題解決に当たれる人材 イ 高い志を有した教養人・指導者・開拓者として、仲間と協働し、ゼロから納得解を創造できる人材 ウ Plan・Do・Check・Actionの各能力、且つ、言語能力を持ち合わせ、社会で自立して生きていける人材 エ 専門性を有し、AI時代を生き残ることのできる人材 オ AIにない読解力と調整力を有した人材 カ 心身ともにタフな人材			ア 問題・課題の発見から解決に到る主体的な学びを通し、個性・独創性の発現につながる質の高い学力を育む。 イ 体験活動、集団活動を通して、自主・自律の心、集団や社会の一員として自覚、社会貢献の精神を育む。 ウ キャリア教育を通して自己：：理解を促し、チャレンジ精神や進路実現に必要な資質能力を育む。 エ 国際理解教育を推進するとともにわが国の伝統・文化に対する理解を促し、真の国際人・教養人を育成する。		
	組織	●成果と課題 ○次年度へ向けて A：大いに達成 B：概ね達成 C：達成できなかった						
中期的目標と方策	全体	（１）社会で活躍する人材の育成(学習指導)	数値目標	○学校評価アンケート「学習指導の満足」の生徒肯定評価85%以上 結果：96.3%であった。				B
			コメント	●主体的な学びについて、観点別学習状況の評価を改善し、評価のしかたと授業改善の視点を結びつけることができた。さらに精選したものに改善していく必要がある。 ●生徒一人1台端末の活用、アクティブ・ラーニングは昨年度より一層推進できた。 ●課題研究を年間計画に基づき、継続的・計画的に実施できた。今後さらに指導の充実が必要である。 ○観点別学習状況の評価について、教科や教科間の話し合いを通して、さらなる改善を実施していく。 ○端末の活用について、学校全体で情報交換をしていく。				
		（２）・「時を守り、場を清め、礼を正す」指導の励行(生徒指導) ・高い志の進路指導(進路指導)	数値目標	○学校評価アンケート「生活指導」の生徒肯定評価80%以上 結果：基本的生活習慣 76.6%、規範意識 90.6%、品位ある行動 89.2%であった。 ○「進学指導・キャリア教育等」の生徒肯定評価85%以上 結果：92.4%であった。				B
			コメント	●ポストコロナを受け生徒主体に行事を運営することができた。コロナ禍により行事等に関するノウハウが継続されなかったこともあり、新たな視点と改善をする機会とすることが必要である。 ●学年ごとに時期に応じて進路ガイダンスを複数回実施することができた。進路部と学年の情報共有をすすめ、評価と指導の一体化を十分行うことが大切である。 ○新教育課程の入試への対応のための情報収集を指導改善を十分行う。				
		（３）戦略的な広報活動の展開（募集対策）	数値目標	○応募倍率2倍の維持 ○更新計画に基づいたホームページの管理 結果：推薦に基づく選抜 5.31 倍、学力に基づく選抜 1.93 倍であった。				B
			コメント	●学校説明会を対面で参加者数を増やし実施した。その結果、6024 名の参加者があった。 ●HP を積極的に活用し、学校広報に努めた。 ●外部団体主催の学校説明会参加の機会を拡大した。（15回参加、689 名対応） ○HP の随時更新により、在校生の部活動や本校の行事や教育活動 PR を積極的・効果的に伝える。				
		（４）信頼に基づく安心・安全な学校	数値目標	○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% ○服務事故ゼロの維持 結果：94.9%であった。服務事故0を維持。				B
			コメント	●100 周年記念式典を実施し、生徒を前面に出し、儀式的行事の成功と充実感のあるものにすることができた。 ●災害を意識した避難訓練等を実施し、防災教育の更なる推進を図った。 ○体罰根絶、いじめの未然防止、服務事故ゼロ等に向けて、毎月、徹底を図る。 ○会議の時間短縮や ICT の効果的な活用で、ライフ・ワーク・バランスのある職務に取り組む。				
	各教科	（５）質の高い教育の提供	数値目標	○学校評価アンケート「学習指導の教材や工夫」の生徒肯定評価85%以上 結果：82.8%であった。				B
			コメント	●生徒一人1台端末を活用した授業を展開し視覚的に訴え主体的に取り組む授業は推進でき、主体的対話的なペア・ワークやグループ・ワークを多く取り入れた授業展開を多く実施することができた。 ●各行事の実施を通して協働的・創造的なクラス活動が実現でき、その経験が個々の成長にも繋がった。 ○一人1台端末、Microsoft Teams 等を更に活用した授業を実践する。 ○行事を更に充実することで、学力だけでなく協働性や創造性を獲得させるとともに、切磋琢磨・仲間意識を育むことで個々の成長を促し進路実現を図る。 ○各学年ともに学期が進むごとに遅刻者が増加する傾向にある。対話による指導を繰り返し生活リズムを改善させることで、学習習慣と主体的に判断する力を育成していく必要がある。				
今年度の取組	各学年	自らの進路を主体的に考え、変化し続ける世界に対応して力強く生き抜いていく力を身に付け。そのために、継続的・計画的な指導を通じて、生徒一人一人の進路希望の実現を図る。	数値目標	○学校評価アンケート「学校入学満足」の生徒肯定評価90% 結果：94.9%であった。				B
			コメント	●求める生徒像で、生徒に求める資質・能力は伝えられているが、本校の指導方針等を明確に効果的に中学生や保護者に伝える方法や資料について検討する必要がある。 ●生徒が安心して学校生活を送れているが、面談や対話的指導を通して個別の進路希望に対応していくことが必要である。 ○学期に1回程度面談を設定し、進路実現に向けたきめ細かい指導を継続する。 ○進路指導の全体計画に基づき、組織的な進路指導を継続する。				
	教務部・教育情報部	・「主体的な学び」の構築 ・明確な目的意識をもって自ら学業に励む生徒の育成 ・新学習指導要領への対応 ・観点別学習状況の評価への対応	数値目標	○入学選抜業務に関する事故ゼロ 結果：事故ゼロ ○新学習指導要領における「観点別評価」の実施 結果：混乱なく進められた。今後継続した評価項目や内容の精査を実施することが必要である。				B
			コメント	●入学選抜業務、事故ゼロを目指して進行管理を行うことはできたが、業務の共有と分担を明確にした上で効率化と正確さ担保する必要がある。 ●観点別学習状況の評価の情報共有や研修会を通して、改善の視点を共有することができた。 ○入選業務計画と、複数名による複数回の点検体制を計画的に構築する。 ○変革する共通テストや大学入試に柔軟に対応していくために教育課程検討委員会を定期的に開催する必要がある。委員会や組織の改組も検討していく必要がある。				

